



# ASJA News Letter

Vol.23 June, 2012

アスジャ・インターナショナル事務局 ASJA (Asia Japan Alumni) International  
〒169-0074 新宿区北新宿3-22-7 東京日本語教育センター内  
3-22-7, Kita-Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 169-0074 JAPAN  
TEL: 03-5338-1285 FAX: 03-5338-1286  
URL: <http://www.asja.gr.jp> E-Mail: [info@asja.gr.jp](mailto:info@asja.gr.jp)



## だい かい りじかい およ へいせい ねんど しゅうりょうしき 第24回アスジャ理事会及び平成23年度アスジャ修了式 へいせい ねん がつ にち きん 【平成24年3月23日(金)】

さ へいせい ねん がつ にち きん しんじゅくけいおう だい かい りじかい およ へいせい ねんど しゅうりょうしき おこな  
去る平成24年3月23日(金)、新宿京王プラザホテルにて、第24回アスジャ理事会及び平成23年度アスジャ修了式が行  
りじかい かっくくりじ がいむしょうかんけいしゃ む へいせい ねんどじぎょうけいかくおよ よさんあん  
われました。理事会では、各国理事、外務省関係者、ASCOJAのオブザーバーを向かえ、平成24年度事業計画及び予算案  
はな あ へいせい ねんど しゅうりょうしき ぎちよう  
などについて話し合われました。平成23年度アスジャ修了式では、ジャン・ロノ議長より、カンボジア女子学生、インドネシア  
めい しゅうりょうしき じゅよ  
男子学生、フィリピン女子学生の3名へ修了証書が授与され、それぞれがアスジャ奨学生としての活動を振り返り、スピーチ  
ひろ しゅうりょうせい めい くわ しょうがくせい およ へいせい ねんど こうりゅうじぎょう いちぶ さんか はじ  
を披露しました。修了生3名に加え、アスジャ奨学生及び平成23年度からアスジャの交流事業の一部に参加し始めたアス  
か めいこくもとに ほ んりゅうがくせい かいすいせん こく ひりゅうがくせい こく ひりゅうがくせい かつどうほうこく おこな  
ジャ加盟国元日本留学生協会推薦の国費留学生(以下、アスジャ国費留学生という)による活動報告も行われました。  
しゅさいしゃ だいひよう ぎちよう あいさつ はじ らいひん だいひよう ふくだ やすお もとないかく  
レセプションパーティーでは、主催者を代表して、ジャン・ロノ議長の挨拶から始まり、ご来賓を代表して、福田 康夫 元内閣  
そうりだいじん あいさつ ちようだい がいむしょう むらた な おき こうほうぶんかこうりゅうぶちよう おんど かんぱい おこな つづ へいせい ねん がつ  
総理大臣にご挨拶を頂戴し、外務省 村田 直樹 広報文化交流部長の音頭で乾杯が行われました。続いて、平成24年3月を  
たいにん めい りじ かたがた かんしゃじよう じゅよ ぎちよう  
もって、アスジャを退任される3名の理事の方々に感謝状が授与されました。ジャン・ロノ議長より、フィリピンのホセ・ルイス・  
りじ りじ りじ かんしゃ たて ぞうてい  
G・レイエス理事、シンガポールのリチャード・チュア・キン・セン理事、タイのラース・マハスウイラチャイ理事へ感謝の盾が贈呈  
さいご たかはし ひろし にほんりじちよう あいさつ いただ ご がくせい かっくくりじ かんけいしゃ あいだ  
されました。最後に、高橋 宏 ネットワーク日本理事長より、ご挨拶を頂きました。その後、学生と各国理事や関係者との間  
こんだん おこな ひ かつどう さいご しゅうりょうせい どうき こうはい わか お なか  
で懇談が行われ、この日でアスジャの活動が最後という修了生たちも同期や後輩たちとの別れを惜しむ中、レセプションは  
しゅうしおだ ふんいき しゅうりよう  
終始穏やかな雰囲気のうちに終了いたしました。



理事会の様子(写真左)、学生会議では6月の学生自主事業(ASEANTロピカル祭り)についての話し合いが行なわれました(右)



ジャン・ロノ議長より修了証書の授与(左)、福田康夫元内閣総理大臣よりご挨拶(右)



レセプションの様子(左)、外務省村田直樹広報文化交流部長による乾杯の音頭(右)



高橋宏ネットワーク日本理事長よりご挨拶(左)、集合写真(右)



## インドネシア男子学生

東京理科大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了後、  
インドネシアで就職活動

2009年にアスジャの学生として日本へ勉強しにきましたが、日本語は、アルファベットではなく、漢字とひらがなとカタカナが言語に使われているから、最初はとても不安でした。しかしアスジャのプログラムでは、大学院に入る前に一年間日本語学校で日本語を勉強するプログラムがありまして、全然日本語を話せなかった私は日本語を話せるようになり、そして、東京理科大学大学院経営学研究科に入学することができました。

さらに、他の留学生では得ることができない日本生活体験研修や日本文化体験などの様々な活動を体験できるようにアスジャは作られている。茶道や和太鼓など日本文化体験が出来て、日本の様々なことを学ぶことができ、日本についての知識も深めることができました。また、長崎原発へ研修に行ったり、去年は、東北で起こった大地震の被災地に行ったりしました。研修活動に行く前に、アスジャ学生たちは目的地についての勉強会を行っています。目的地についてのレポートを書かなければならないし、勉強会で自分のテーマについてプレゼン発表をしなければなりません。アスジャの活動の中では、勉強会や発表などの機会が多いため、日本語もより上達できるし、プレゼンテーションのやり方や話し方のスキルなども上手くなってきていると思います。また、日本人と文化交流会もあって、お互いに日本と東南アジアの国々の知識への理解を深めることができました。

最後に、アスジャの活動を通して、私たちアスジャ学生は、日本の文化や日本人の考え方などより分かってきました。また、日本人も東南アジアの国々の文化へ親しみがわいてきたと思います。将来は日本と東南アジアの国々との関係がもっと強くなっていくと思いますので、みんなで手と手を取り合って、明るい未来を作っていきたいと思っています。

## フィリピン女子学生

学校法人江副学園新宿日本語学校日本語教師養成クラスコース修了後、  
University of the Philippinesに復学

私は、一年目に日本学生支援機構の東京日本語教育センターで二年目に江副学園新宿日本語学校で日本語を勉強しました。二年目の日本語教師養成のクラスでは、理論と実習の授業がありました。理論では五つの科目があり、日本事情、言語学、教授法、語彙、文法を学び、先生になるように江副式教授法を勉強し、実習をやらせてもらいました。普通の日本語の勉強ではないので、より難しく深い日本語や日本語の特徴などを学ぶことができて本当にうれしく思いました。三ヶ月間だけの勉強はとても忙しくて難しかったですが、将来、きっと人の役に立つと思い、この習ったことは日本語の教師として自分に自信を持って、就職したいと思っています。

二年間、いろいろなアスジャの活動や日本の文化などを体験させてもらって本当に感謝しています。日本に来る前に、考え方は狭かったですが、日本に来てからいろいろなことを学んだり、体験したりしました。未来のことが気になって、これからいろいろなことをもっと学びたくて、知りたくてたまりません。二年間の留学は大変で辛い時や寂しい時などがありました。アスジャのスタッフ達と同じ奨学生がいるのでこれを超えられました。アスジャは私にとって家族のような存在で、私はこの家族の一員であることはうれしいと思います。アスジャ奨学金のおかげで、私は日本に留学できて、考え方が広がり、少しだけでも成長することができたと思います。とても充実した二年間でした。今の私は二年前の私よりも自信を持つことができました。

去年の三月十一日に日本で大震災が起きました。東北地方では、地震だけではなく津波も起きて、たくさんの人々がなくなったり、家も破壊されたりして本当に悲しいです。日本生活体験研修で私たちは震災の半年後に岩手県の宮古市に行きました。道はだいぶきれいになり、被災者の皆さんもお互いに助け合ったり、原発があってもたくさんのボランティアが何回も東北へ行ったりして、すごいことだと思います。ですから、他の国々も、災害が起きたときは、日本人と同じように規律をもって行動してほしいと思っています。日本人のような規律と行動を学んで成長していきたいと思っています。どうもありがとうございました。



## カンボジア女子学生

早稲田大学大学院経済学研究科公共経済学専攻修士課程修了後、  
ミネベア株式会社に就職

はじめに、皆様（みなさま）に心（こ）からお礼（れい）を申し上げます。皆さまのお陰（かげ）で、今日（きょう）アスジャ奨学生（しょうがくせい）として卒業（そつぎょう）でき、4月（がつ）から日本（にほん）メーカーであるミネベア株式会社に勤（こ）めることになりました。大変（たいへん）お世話（せわ）になり、本当に（ほんとう）ありがとうございました。

私（わたし）の修士論文（しゅうしろんぶん）のテーマはインセンティブとインサイダー取引（とりひき）についてです。インサイダー取引（とりひき）は株式市場（かぶしきしじょう）にとってとても重要な問題（じゅうよう もんだい）です。現在（げんざい）カンボジアで作（つく）られている株式市場（かぶしきしじょう）でもこの問題（もんだい）を考（かんが）えなければなりません。論文（ろんぶん）には発展（はつてん）している株式市場（かぶしきしじょう）のことについて少し書（か）きましたので、将来（しょうらい）この成果（せいこ）はカンボジアの株式市場（かぶしきしじょう）に貢献（こうけん）できると考（かんが）えております。

私（わたし）は他の奨学金（しょうがくきん）の学生（がくせい）と違（ちが）って自分の専門（せんもん）だけでなく日本語（にほんご）を一年間（いちねんかん）勉強（べんきょう）することができました。このお陰（かげ）で、全然（ぜんぜん）日本語（にほんご）ができなかった私（わたし）は日常会話（にちじょうかいわ）や様々な手続（さまざま てつづ）きを行うための日本語（にほんご）が分かるようになりました。そして、就職活動（しゅうしゅうかつどう）もできました。日本語（にほんご）を勉強（べんきょう）し始めた時（とき）には辛い（つら）こともありましたが、日本語（にほんご）ができると日本（にほん）での生活（せいかつ）に困（こま）ることもなく、また就職（しゅうしよく）することもでき、何（なん）より日本人（にほんじん）の考（かんが）え方を理解（りかい）するのにとても役立（やくだ）ちました。

毎年（まいとし）行（おこな）われている日本生活体験研修（にほんせいけつたいけんけんしゅう）や研修合宿（けんしゅうがっしゅく）などで日本（にほん）の有名（ゆうめい）な歴史（れきし）や美しい自然（しぜん）がある場所（ばしょ）などを訪（おとず）れることができ、また、日本（にほん）の大切な伝統文化（でんとうぶんか）である能楽（のうがく）、茶道（さどう）、和太鼓（わだいこ）、歌舞伎（かぶき）なども学（まな）ぶことができました。去年（きょねん）10月（がつ）には、東日本大震災（ひがしにほんだいしんさい）で被害（ひがい）を受けた宮古市（みやこ）の仮設住宅（かせつていしや）でボランティア活動（かつどう）をしました。そこで出会（であ）った被災者（ひさいしや）のおばあさん（おばあさん）から心（こころ）が痛（いた）くなるほどとても悲（かな）しいお話を聞（き）き、地震（じしん）と津波（つなみ）の日（ひ）を感じる（ひさしいしや）ことができました。被災者（ひさいしや）の気持ち（きもち）や辛（つら）さを深く（ふか）感じる（かん）ことができました。日本（にほん）の社会（しゃかい）に貢献（こうけん）したいという気持ち（きもち）が高（たか）まりました。

アスジャの活動（かつどう）を通じて日本人（にほんじん）やほかの留学生（りゅうがくせい）と友（とも）だになって、社会（しゃかい）のネットワークも広（ひろ）がりました。アスジャがくださった機会（きかい）のお陰（かげ）で、日本（にほん）に留学（りゅうがく）しながら、在日カンボジア留学生協会（ざいにちりゅうがくせいきょうかい）の活動（かつどう）にも参加（さんか）できました。日本（にほん）とカンボジアの架け橋（かはし）という役割（やくわり）ができた（な）と私（わたし）は思（おも）っております。今後（こんご）もこの役割（やくわり）を継続（けいぞく）し、これまでできたネットワークと学（まな）んだこと（こと）をいかし、将来（しょうらい）日本（にほん）とカンボジアの貿易（ぼうえき）の仕事（しごと）をしたいと思（おも）います。来月（らいげつ）から日本（にほん）の会社（かいしや）に勤（こ）めること（こと）になりますが、今後（こんご）アスジャのこ（こ）を応援（おうえん）しています。アスジャ・インターナショナル（かんけいしや）とその関係者（かんが）者のみなさま（みなさま）に、改めて（あらた）て、ありがとう（あらた）ございました。

## へいせい おん ど こくひりゅうがくせい しょうかい 平成24年度アスジャ国費留學生の紹介

①国籍・性別：フィリピン男子学生

②在籍：大阪大学大学院

③専門：ナノ・パイオ・エンジニアリング

④自己紹介：

私（わたし）はフィリピン、マニラのデ・ラ・サール大学（だいがく）で修士号（しゅうしごう）を取得（しゅとく）しました。私（わたし）はナノ材料（ざいりよう）の合成（ごうせい）と特性解析（とくせいかいせき）が専門（せんもん）です。現在（げんざい）は、大阪大学（おおさかだいがく）に所属（しよぞく）しています。私（わたし）はナノ・テクノロジー（ぶんや）の分野（べんきょう）でもっと勉強（べんきょう）するため、また、ナノ・テクノロジー（せいぶつがく）の生物学（せいぶつがく）や医学（いがく）の分野（ぶんや）での応用（おうよう）について知る（し）ために日本（にほん）で勉強（べんきょう）したいと思（おも）います。

⑤趣味：

歌（うた）うこと、踊（おど）ること、写（しゃ）真（しん）を撮（と）ること、イン（い）ター（た）ネット、フェイスブ（ふ）ック、日本（にほん）のアニメ（あにめ）、フォトショ（ふとしょ）ップ（かこう）での写（しゃ）真（しん）加工（かこう）

⑥日本留学中にやりたいこと：

伝（でん）統（とう）的（てき）な舞（ま）台（たい）芸（げい）能（ねい）を（を）る（を）こと。日本（にほん）料理（りょうり）の作（つく）り方（かた）を学（まな）ぶこと。日本（にほん）人（じん）と友（とも）だに（に）なる（に）こと。

こくせき せいべつ  
**①国籍・性別:** シンガポール女子学生  
 ざいせき なごやだいがくだいがくいん  
**②在籍:** 名古屋大学大学院  
 せんもん ひかくげんごぶんか  
**③専門:** 比較言語文化  
 じ こしやうかい  
**④自己紹介:**  
 おさな ころ にほん ぶんか げんご ひじょう きょうみ たびにほん べんきょう にほん ぶんか  
 幼い頃から、日本の文化と言語に非常に興味がありました。ですので、この度日本で勉強ができること、また、日本の文化  
 しゃかい りかい ふか きかい たいへんかんしゃ  
 と社会について理解を深められる機会に大変感謝しています。  
 じ こ  
**⑤自己PR:**  
 こうらん ねん にほん すうかげつたいざい きかい さどう まな よ ともだち つく さっぱろ  
 幸運なことに2010年に日本に数ヶ月滞在する機会がありました。そこで茶道を学び、とても良い友達を作りました。札幌を  
 さ あと にほん ともだち あ こ にほん ともだち ゆうじょう かんしゃ  
 去った後も、日本の友達がシンガポールに会いに来ようとしてくれました。日本の友達のホスピタリティーと友情に感謝して  
 います。  
 にほんりゅうがくちゅう  
**⑥日本留学中にやりたいこと:**  
 さどう こと にほんぶよう にほん でんとうげいのう まな おも にほんしゃかい とく にほんじん かんが  
 茶道、琴、日本舞踊などの日本の伝統芸能についてもっと学びたいと思います。また、日本社会での、特に日本人の考  
 へ方や価値観について理解を深めたいと思います。

こくせき せいべつ  
**①国籍・性別:** タイ女子学生  
 ざいせき わせだだいがくだいがくいん  
**②在籍:** 早稲田大学大学院  
 せんもん にほんごきょういく  
**③専門:** 日本語教育  
 じ こしやうかい  
**④自己紹介:**  
 わたし ちい にほん おんがく こうつう べんり まち ひじょう はってん あこが  
 私は小さいころから日本のファッション、音楽、交通が便利なことや町が非常に発展していることなどに憧れて、日本に  
 い おも こうこう にほんご べんきょう はじ ねん めいじだいがく こくさいにほんがくぶこうかん  
 行ってみaito思っていました。そして、高校で日本語を勉強し始めました。また、2010年に明治大学の国際日本学部交換  
 りゅうがくせい ねんかんべんきょう ご きこく にほん けんきゅう おも こんかい きかい  
 留学生として1年間勉強しました。その後タイに帰国しましたが、また日本で研究したいと思っていましたので、今回の機会  
 をうれしく思っています。  
 うれ おも  
**⑤自己PR:**  
 げんざい あこが おんがく にほん しゅうかん かんが かつ ちが あたら まな たと あま  
 現在、憧れであったファッションや音楽だけでなく、タイと日本の習慣や考え方の違いも新しく学んでいます。例えば、「甘  
 え」という概念について勉強した時に、同じアジアの国でもタイと日本では違うことが分かってきました。また、アニメやゲーム  
 については、日本で先生や業界の関係者の方々に話を聞かせていただくことができ、大変面白いと思いました。それに、  
 どうきゅうせい さまざま くに き こくさいてき かんきょう なか けいけん わ あ とうろん べんきょう おも  
 同級生が様々な国から来ていますので国際的な環境の中で経験を分かち合ったり討論をしたりして勉強したいと思ひます。  
 にほんりゅうがくちゅう  
**⑥日本留学中にやりたいこと:**  
 にほんご ふか まな きもの さどう かどう にほん とくちやうてき ぶんか まな のう かぶき み い  
 日本語をもっと深く学びたいです。また、着物、茶道、花道など日本の特徴的な文化を学び、能や歌舞伎も見に行ってみた  
 いです。アスジャの活動や大学院の活動にも参加したく、また、日本の社会、生活にも興味があります。

こくせき せいべつ  
**①国籍・性別:** ミャンマー男子学生  
 ざいせき とうきやうだいがくだいがくいん  
**②在籍:** 東京大学大学院  
 せんもん じんるいいでんがく  
**③専門:** 人類遺伝学  
 じ こしやうかい  
**④自己紹介:**  
 わたし さい わたし くに ねんまえ だいがく そつぎやう いしゃ にほん わたし とうきやうだいがく けんきゅうせい じんるいいでんがく べんきやう  
 私は23歳で、私の国では2年前に大学を卒業した医者です。日本では私は東京大学で研究生として人類遺伝学を勉強  
 しています。  
 しゅみ  
**⑤趣味:**  
 わたし じぶん くに いしゃ かんじゃ み おな がくじゅつちやうさ きやうみ わたし  
 私は自分の国では医者をしています。患者を診ることに同じくらい、学術調査をすることに興味があります。私の  
 きやうみ ぶんや こうけつあつ とうによびやう しんぞう じんぞう びやうき ふくざつ びやうき いでんてき きそ べんきやういがい ほん よ  
 興味の分野は、高血圧、糖尿病、心臓や腎臓の病気などの複雑な病気の遺伝的な基礎です。勉強以外では、本を読んだ  
 り、音楽を聴いたり、考え事をしたり旅行をしたりするのが好きです。水泳やテニスなどのスポーツをするのも好きです。

にほんりゅうがくちゅう

⑥日本留学中にやりたいこと:

にほん あいだ わたし いでんがく にほん ぶんか げんご ほかに くにに ぶんか まな おも

日本にいる 間に、私は遺伝学だけでなく日本の文化や言語、また、他のASEANの国々の文化も学びたいと思っています。

ときようだいがく だいがく きょうどうけんきゅう おも

す。また、東京大学とミャンマーの大学での共同研究もしたいと思っています。

こくせき せいべつ

①国籍・性別: カンボジア女子学生

ざいせき わせだ だいがく だいがくいん

②在籍: 早稲田大学大学院

せんもん ようしょうじきよういく

③専門: 幼少児教育

じ こしょうかい

④自己紹介:

わたし いま ようしょうじきよういく けんきゅう だいがくいん はい わせだ だいがく けんきゅうせい はじ にほん ひとたち

私は今、幼少児教育の研究のために大学院に入るため、早稲田大学で研究生をしています。まず初めに、日本の人達

しんせつ やさ にほん よ とき す わたし かぞく

は親切で優しいとお伝えしたいです。そのおかげで、これまで日本で良い時を過ごしてきました。私のカンボジアの家族に

おさな こども わたし ようしょうじきよういく たい きょうみ はじ わたし おさな ころ さかのぼ わたし

はたくさんの 幼い子供たちがいます。私の幼少児教育に対する興味の始まりは私がまだ幼かった頃に 溯ります。私

しゅうい いとこ かれ いっしょ あそ まな す わたし わたし

の周囲にはたくさんの従妹たちがいて、彼らと一緒に遊んだりともに学んだりするのが好きでした。したがって、私は私の

にほん けんきゅう りょうか ち ようしょうじきよういく おお たす ころ ねが

日本での研究が利用価値のあるものとなり、カンボジアでの幼少児教育の大きな助けになれるよう心から願っています。

とくぎ しゅみ

⑤特技、趣味:

こども いっしょ す とく い じゅうじかん どくしょ かんこう で ほかに す

子供と一緒に過ごすのが得意です。自由時間には、インターネットをしたり、読書をしたり観光に出かけたりします。他に好

りょう えいが

きなことは旅行と映画です。

にほんりゅうがくちゅう た もの りょうきょう きょういく にほんじん にちじょうせいかつ み おも にほんしよく

⑥日本留学中にやりたいこと: 食べ物や旅行、教育システムなど日本人の日常生活を見たいと思います。日本食はとてもお

つく くわ ようちえん ちょうさ にほん ぶんかてきめいしよ ほうもん

いしいので、作ってみたいです。加えて、ホームステイをしたり、幼稚園での調査をしたり日本の文化的名所を訪問したりし

にほんたいざい おも で ぶか にほん ひとたち こうりゅう

たいです。日本滞在が思い出深いものとなるよう、日本の人達と交流したいです。

にほん ぶんかたいけんかつどう すもう べ や けい こけんがく え どうきょうはくぶつかんけんがく

## 日本文化体験活動 相撲部屋稽古見学・江戸東京博物館見学

へいせい ねん がつ にち ど

【平成24年4月21日(土)】

すもう こくぎ ながいでんと う たいりよく せいしんりよく じゅうし にほん ぶんか しょうちよう いちめん すもう

相撲が国技として長い伝統をもち、体力だけでなく精神力も重視するという日本文化を象徴する一面をもつことから、相撲

べ や けい こけんがく にほん ぶんかたいけんかつどう と い え ど れきし およ ぶんか にほん しゅととうきょう な た りかい

部屋稽古見学を日本文化体験活動に取り入れました。また、江戸の歴史及び文化、日本の首都東京の成り立ちを理解するこ

もくてき え ど とうきょうはくぶつかん ほうもん とうじつ しょうがくせい めい こくひりゅうがくせい めい さとう じ む そうちよう

とを目的として、江戸東京博物館も訪問しました。当日は、アスジャ奨学生9名、アスジャ国費留学生6名、佐藤事務総長、

じむきよく めい けい めい さんか

事務局2名の計19名が参加しました。

### 当日のスケジュール

| じかん<br>時間   | ないよう<br>内容                                                                                          |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 07:45       | きん しちようえき みなみぐちがいまつぐちしゅうこう<br>錦糸町駅 南口改札口集合                                                          |
| 08:15～09:15 | すもうおよ え ど とうきょう べんきょうかい<br>相撲及び江戸・東京についての勉強会                                                        |
| 09:45～13:00 | いせ が はま べ や けんがく とうきょうとうこうとうく<br>伊勢ヶ濱部屋見学(東京都江東区)<br>すもう けい こけんがく およ ちゅうしよく なべ<br>相撲稽古見学及び昼食(ちゃんこ鍋) |
| 14:00～17:00 | え ど とうきょうはくぶつかん とうきょうとす み だく<br>江戸東京博物館(東京都墨田区)<br>とくべつてん およ じょうせつてんけんがく<br>特別展「ザ・タワー」及び常設展見学       |

げんかん ふつう じたく はい がくせい すこしおどろ なか いっぽはい けいこ げんしゆく ふん い き

玄関から普通の自宅に入るようだったので学生は少し驚いていました。しかし、中に一歩入ると、稽古の厳肅な雰囲気

おおせい けんがくしや りきし しゅうちゅうりよく しんけん がくせい み ひ し おも か

そして大勢の見学者にもかかわらず、力士たちの集中力と真剣さに、学生は身が引き締まる思いになりました。勝ちぬきで

あいて か もう あ て て わ けんがく からだ からだ はげ

相手が代わっていく「申し合いげいこ」や、せめ手と受け手に分かれる「ぶつかりげいこ」などを見学して、体と体が激しくぶ

あ きび けいこ ようす おどろ みずか げんかん ちようせん けいこ わか りきし すがた ま あ

つかり合う厳しい稽古の様子に驚いていました。自らの限界に挑戦して稽古をしている若い力士たちの姿を目の当たりに



して、彼らの忍耐力と高い精神力に感動している学生が多かったです。大相撲の場所に立てるのは、このような血のにじむ日々の稽古に裏打ちされた努力の賜物であることがわかり、成功するためには、努力をして困難を克服する必要があることを学んだようです。

屋食には、伊勢ヶ濱親方を囲んで、ちゃんこ鍋を頂きました。伊勢ヶ濱親方からは、国技としての相撲の大切さの話を聞くことができました。学生は、力士が丁寧な四股、清め塩、仕切りなどという行動の一つずつ行う様子に和の心が表れており、また相撲は、体力だけの競技ではなく、心の修練も重要であることを学びました。また、日本の伝統文化を表している相撲を、国技としてこれからも守っていくことが重要と考える学生が多かったです。特に、日本人、外国人の区別無く若い人を教育していることが印象に残ったようで、どんな人でも日本の精神を学ぶことが、相撲が海外でも盛んな理由と考えた学生もいました。お

屋のちゃんこ鍋は、栄養のバランスも考えられて、なおかつ美味しく、力士たちの健康の源を知ることができたようです。

午後は、江戸東京博物館へと向かいました。まず初めに特別展である「ザ・タワー(都市と塔のものがたり)」を専門ガイドの説明を受けながら見学しました。19世紀末から20世紀にかけての3つの都市(パリ・東京・大阪)に生まれた塔を中心に、様々な時代の都市に建てられた塔の資料約380件を展示していました。母国で高層ビルが少ない学生は、塔を作る技術力の高さに関心しており、特に、地震国である日本での耐震性を考慮した作りになっていることに興味を持ったようです。続いて、常設展では、江戸から東京までの文化や歴史について学ぶことができ、浮世絵や絵巻、着物、古地図など約2,500点、大型模型など50点あまりが展示されています。中に入ると実物大に復元した江戸時代の日本橋を渡ることができ、学生は、江戸時代にタイムスリップしたような感覚になりました。特に、多数展示されている模型や複製は本物のように生き活きしており、また来場者に参加させる体験型展示もあり、江戸時代の歴史や文化を面白く、わかりやすく勉強することができました。また、展示模型などの技術力の高さも印象的だったようです。



稽古場の力士達と(写真左上)、力士は側に寄ってみるとやはり大きいと学生達(右上)、力士達との屋食時の様子(中段左)、ちゃんこ鍋(中段右)、江戸東京博物館にて、芝居小屋・中村座の復元模型の前で(左下)、ガイドさんの話を聞く学生達(右下)

## 学生の感想文

## =相撲部屋稽古見学=

### 【インドネシア男子学生】

実際に相撲部屋を見学できて、力士になるということが大変なことだとわかるようになりました。力士たちは同級生たちと勝負したり、技術を習ったりすることを何回も繰り返さなければなりません。力がゼロまで頑張らないといけない。先輩たちは厳しく教えてくれます。一見、先輩たちが後輩たちにとっても厳しいように見えますが、実に、先輩たちは愛情があるからこそ、後輩たちの体が強くなるように、そして彼らが簡単に諦めない力士になるように教えています。したがって、後輩たちはしっかり先輩たちの指導について行かなければなりません。実際の試合に出るときはもっと厳しい状況に立ち向かわなければならぬので、十分訓練しておいたほうがいいと考えているのかもしれませんが。見学して一番興味を持ったことは訓練の場所が他のスポーツの訓練場所と比べてあまり広くないことです。このような狭い場所から大きく強い相撲を生み出しているとは思いませんでした。狭い場所でみんながお互いに気を付け合うことが大切なのではないかと思います。

### 【マレーシア女子学生】

いちばんきょうみ も よこづな かくづ たつ りきし にんたいりよく すもうべや りきし かくづ  
 一番興味を持ったことは横綱の格付けまで達する力士たちの忍耐力である。相撲部屋の力士たちには格付けがあり、  
 いせが はまべや おやかた つ さいじょうい じん おおぜきはる まふじ じん ことば ぶんか ちが  
 伊勢ヶ濱部屋では親方に次ぐ最上位はモンゴル人の大関日馬富士だった。モンゴル人ということなので、言葉や文化の違い  
 こま おも にほん すもう きょうみ も がいくせき かか にほんじん いっしょ がんば きも にんたいりよく  
 で困ることもあると思う。日本の相撲に興味を持って、外国籍にも関わらず日本人と一緒に頑張ろうという気持ちと忍耐力は  
 すば りきし けいこ ようす み けいこ たいへん つた はじ けいこ  
 素晴らしいと思う。力士たちが稽古している様子を見て、稽古はとても大変なものだということが伝わってきた。初めて稽古を  
 み わたし わか りきし かん りきし くんれん まいにち くんれん  
 見た私には若い力士たちがとても大変だと感じられたが、力士たちにとってはいい訓練だったようだ。毎日このような訓練を  
 つつ しあい かし すず よこづな かくづけ のぼ りきし ひじょう そんけい  
 続けて試合で勝ち進み、横綱の格付けまで昇る力士たちを非常に尊敬している。

### 【ベトナム男子学生】

I am impressed by the way they live in the sumo stable. They have to follow a strict tradition in many aspects of their daily lives, from meals to their manner of dress. I used to think that sumo wrestlers are slow, but watching them practicing I found that they are really fast and strong. Also, it seemed to me that everyone was very proud of being a sumo wrestler, and they all tried hard to be stronger and stronger. Their training is what impressed me most. All the sumo wrestlers had to reach, or even go over their limits. They kept challenging each other, falling down and standing up again and again. I was very excited in how they managed to keep that hard training every day. Many times I thought they were going to finish the training because everyone looked tired, but no, they still stood there, training over and over.

I think sumo is very important as a Japanese national sport because it represents everything that is good in traditional Japanese culture. I learned that a professional sumo wrestler is very famous and adored by all Japanese public. These professional sumo wrestlers appear in public in a kimono or a silk robe, wear their hair in top-knots and live at the sumo stable. I also read from a document that a professional sumo wrestler in Japan would look just like a Samurai without a sword in public. Talk in another way, the sumo wrestler really represents Japanese spirit. Therefore, the world of professional sumo is steeped in tradition and culture, and sumo is important as a national sport.

## 学生の感想文

## =江戸東京博物館=

### 【タイ男子学生】

えどうきょうはくぶつかん もっと きょうみぶか おお はくぶつかん ちいき  
 江戸東京博物館について最も興味深かったことは、その大きさと存在そのものです。たくさんの博物館は、その地域の  
 きょういく たい いしき たか はんえい いけん わたし さんせい たし はくぶつかん おお おお  
 教育に対する意識の高さの反映だという意見に私も賛成だからです。また、確かに博物館は大きければ、大きいほどその  
 ちいき きょういく さか い はくぶつかん いちばん よ きょうかしよ きょうざい み おや せんせい こども  
 地域の教育は盛んであると言われています。博物館は一番良い教科書、教材と見なされます。親や先生が子供たちに  
 え ど おし おお きょうかしよ なか あそ べんきょう おお はくぶつかん もっと よ  
 「江戸」を教えるとき、その大きい教科書の中で遊ばせたり勉強させたりすることができるので、大きな博物館は最も良い  
 きょうざい おも はくぶつかん せつりつ てんじぶつ つく えどじだい やく ねんぶん じつぶつしりよう  
 教材ではないかと思えます。博物館を設立するためにたくさんの展示物を作ったり、江戸時代から約400年分の実物資料を  
 しゅうしゅう たいへん おも しりょう ぼぞんじょうたい よ おも  
 収集したりしたことは大変すばらしいと思います。どの資料も保存状態が良いと思いました。

### 【ミャンマー男子学生】

In Edo era, I found various exhibitions which reflect people's life in traditional Japanese ways. I found row houses in which the entire family lives in one small room and the view of the west side of Ryogoku bridge and it occurred to me that Japanese population must have been quite large in Edo area. I also found Kabuki theatre in very traditional appearance. It can generally be inferred that Japanese society in the first half of the 19th century was still mostly traditional.

In the exhibitions of the Tokyo era, we saw some buildings in European Architecture including one which was the home to the Choya Newspaper Company and located in today's Ginza and the one for entertaining foreign diplomats and dignitaries. These buildings, built in later half of the 19th century, can be recognized as early symbols of Westernization. Later in the first half of the 20th century, even houses were modernized to a combination of European and Japanese styles. Cars were also imported from foreign countries. I think it was also around that time the way they dress had changed to western style. These changes were followed by development pointing indirectly that the enlightenment that came along with westernization had inaugurated and empowered the creativity and productivity of Japanese people.

We then looked at the displays about the World War II and its destructive effects. When looking at the post-war reconstructions, I could imagine the attitude and perseverance of Japanese people who created the present day Tokyo out of these post-war conditions.



へいせい ねん ど こくひりゅうがくせい  
**平成24年度アスジャ国費留学生オリエンテーション**  
 へいせい ねん がつ にち きん  
**【平成24年5月25日(金)14:00-17:30】**



佐藤事務総長(円卓左手)と学生たち(円卓右手)、通訳はアスジャ奨学生のマレーシア女子学生が担当(写真下)

アスジャ国費留学生は、平成23年度よりアスジャの交流活動の一部に参加しています。平成24年度のアスジャ国費留学生は、4月に5名(フィリピン、シンガポール、タイ、ミャンマー、カンボジア)が日本に来ました。10月に3名(インドネシア、マレーシア、ベトナム)が来日する予定で、平成23年度の学生7名と合わせて、アスジャ国費留学生は15名となりました。アスジャ国費留学生とアスジャ事務局の初めての顔合わせとなったオリエンテーションは、東京日本語教育センターで行われました。初めに、佐藤事務総長より、アスジャの団体の説明、元日本留学生協会とアスジャの関係、国費留学生の参加事業について話がありました。引き続き、国費留学生から研究内容などについての自己紹介がありました。アスジャ国費留学生は、日本文化を学びたい気持ちが高く、アスジャの交流活動に参加できることを楽しみにしています。

へいせい ねん ど こくひりゅうがくせいかんげいかい  
**平成24年度アスジャ国費留学生歓迎会**  
 へいせい ねん がつ にち きん  
**【平成24年5月25日(金)18:30-20:30】**



外務省人物交流室伊田俊雄首席事務官よりご祝辞(写真左)  
 来賓と初めて対面するアスジャ国費留学生(右)



乾杯のご挨拶を田島高志理事より頂く(写真左)  
 文部科学省高久和也国費留学生係長よりご祝辞(右)

アスジャ国費留学生オリエンテーションが行われた同日に、東京日本語教育センターにてアスジャ国費留学生の歓迎会が行われました。学生21名(平成24年度アスジャ国費留学生5名、平成23年度アスジャ国費留学生4名、アスジャ奨学生12名)、佐藤事務総長、事務局2名が出席しました。

歓迎会には、来賓として、外務省広報文化交際部人物交流室 伊田俊雄首席事務官、川添忠吉課長補佐、田島高志日本理事、文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室 高久和也国費留学生係長、小川靖之専門職など多くの方々のご出席を頂きました。はじめに、佐藤事務総長の挨拶に続き、伊田首席事務官よりご祝辞を頂き、国費留学生は力強い励ましの言葉に勇気づけられました。続いて、5名の国費留学生が研究内容など自己紹介をして、その後、田島理事より乾杯のご挨拶を頂きました。しばらく歓談した後、高久国費留学生係長よりご挨拶を頂き、温かい歓迎の言葉に励まされました。

アスジャ国費留学生は、これからお世話になる方々や先輩アスジャ学生とも大いに交流を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。また、多くの方々に歓迎され、支えられているということを実感することができました。

最後に、アスジャ学生が練習を重ねてきた坂本九の「上を向いて歩こう」及びSMAPの「世界に一つだけの花」を披露して、歓迎会を終りました。



来賓の方々と留学生との記念写真



# へいせい ねん ど がくせいじしゅじぎょう まつ 平成24年度アスジャ学生自主事業「ASEANTロピカル祭り」

へいせい ねん がつ にち ど  
【平成24年6月30日(土)14:00~18:00】

へいせい ねん がつ にち ど がくせいじしゅじぎょう まつ どうきょうにほんごきょういく がくせい  
平成24年6月30日(土)に、アスジャ学生自主事業である「ASEANTロピカル祭り」を東京日本語教育センターの学生ホー  
ル(北新宿)で開催しました。この事業は、学生が自ら企画し実施するもので、2003年より、2年に1回行われています。

とうじつ かめいこく どうなん かこく がくせい じこくぶんか はっぴょう  
当日は、アスジャの加盟国である東南アジア8ヶ国の学生が、自国文化のプレゼンテーション発表やファッション・ショー、ダ  
ンスなどのパフォーマンスを披露しました。また、会場内では、東南アジア各国の紹介展示を行うとともに、参加者との交流会  
を実施しました。

しゅつせきしゃ いっぱん かた めい がくせい めい しよくいん めい そうぜい めい いちどう かい  
出席者は、一般の方が134名、学生が25名、職員が4名となり、総勢163名が一同に会しました。

ことし がつ けんしゅうがっしゅく めい へいせい ねん がつき しやうがくせい へいせい  
今年の2月の研修合宿で、3名のリーダー(平成22年4月期アスジャ奨学生のシンガポール女子学生とタイ男子学生、平成  
23年度10月期アスジャ国費留学生のタイ女子学生)を学生による話し合いで決めて以来、約5ヶ月かけて、準備をしてまし  
た。学生全員が決められた役割に基づいて、6月16日には、会場である東京日本語教育センター 学生ホールで、本番さな  
がらのリハーサルを行い、当日の流れや準備に必要なものを確認しました。

## リハーサルの風景(6月16日)

## プログラムシート

### がくせいぜんいん やくわり 【学生全員の役割】

- ①リーダー  
かっこくはっぴょうしゃ
- ②各国発表者  
しかい
- ③司会  
ひか
- ④ホール・ステージチーム  
おんきょう しやうめい
- ⑤音響・照明  
さつえい えいぞう ほうこくしやくせい
- ⑥撮影・映像・報告書作成  
うけつけ
- ⑦受付  
こうほうぶつせいさく
- ⑧広報物制作  
こうりゅうかい
- ⑨交流会



リーダー3人から流れの説明(左)舞台照明を確認(中央)プログラムシート表紙にマスコットキャラクター(右)



ファッションショーの衣装着付け練習(左)国ごとに発表のリハーサル(中央)プログラムシート中面(右)



## <プログラム>

まつ どうじつ どうなん かこく がくせい はっぴょう  
ASEANTロピカル祭りの当日は、東南アジア8ヶ国の学生が、パワーポイントでのプレゼン発表、ファッション・ショー、デモン  
ストレーション、楽器演奏、ダンスなど、参加者に飽きがこないよう多様な方法を用いて、東南アジアの幅広い文化を紹介する  
ことができました。光るブレイスレットやレイ首飾りは、トロピカルな雰囲気を出し、参加者に喜んでもらえるようにと学生がアイ  
ディア出したもので、会場の雰囲気を盛り上げることができました。フィナーレでは、裏方を含めた学生全員がステージにあ  
がり、参加者からの拍手を頂き、最後にはクラッカーを鳴らして盛り上げました。また、学生が自ら考えたマスコットキャラ  
クター「トビ君」を使用したプログラムシートも参加者の目をひいたと思われます。

## <展示・交流会>

ちゅうおう がくせいづく いろあざ てんとう かこ どうなん こつき かざ  
ステージの中央にある学生手作りの色鮮やかなバナーは、点灯のライトに囲まれ、また東南アジアの国旗で飾られており、  
参加者の注目を引きました。会場の壁には、学生が長い時間かけて作った紹介ポスターパネルを、またステージの両側には、  
ミャンマー大使館よりお借りしたミャンマーの写真パネルを展示し、会場を一層華やかなものにしました。会場の後方には、  
東南アジア各国紹介の展示物を披露し、ポストカードやパンフレット、学生が持ち寄った雑貨などを陳列し、休憩時間に  
学生と参加者との会話のきっかけとなりました。学生全員が、華やかな民族衣装を身にまとい、東南アジア固有の民族衣装を  
紹介するとともに、参加者の目を楽しませていました。

交流会では、学生が持ち寄った各国のお菓子や飲み物を用意し、学生と参加者との間では、活発な意見交換が行われました。参加者たちは、東南アジアの珍しいお菓子や飲み物に触れることができ、その国への興味をもつ契機となったようです。また、発表の後での交流会は話が弾み、お互いの国を理解し、コミュニケーションの輪を広げる場を提供できました。

## 「ASEANTロピカル祭り」プログラム

- 14:00 開会の辞 佐藤 次郎 (アスジャ・インターナショナル事務総長)
- 14:10-15:10 東南アジア8カ国の留学生による発表・パフォーマンス (前半)
1. インドネシアにおける独特な海岸の観光地【PPTプレゼンテーション】  
インドネシアの自然にできた美しい海岸を3つのカテゴリー(文化海岸、パノラマ海岸、スポーツ海岸)に分けて、二人の発表者が写真を多用しながら紹介した。
  2. ベトナムと日本の歴史上のつながり【PPTプレゼンテーション】  
8世紀の阿倍仲麻呂の安南都護府、朱印船貿易時代におけるベトナムでの日本人町、19世紀初頭のファン・ボイ・チャウなど、時代を追ってベトナムと日本のつながりを紹介した。
  3. カンボジア Colors of the Days, 7 Days【ファッション・ショー】  
カンボジアの伝統民俗衣装サンポット・チャン・クバンを曜日に対応する7色の衣裳を7人の学生が披露。ショーの前には、長いカンボジア・シルクを使う着方や特徴なども説明した。
  4. シンガポール・スリング(カクテル)の作り方【デモンストレーション】  
シンガポールの有名な夜景観光場所をPPTで紹介した後、ラッフルズ・ホテル発祥のシンガポール・スリングの作り方をデモンストレーションした。
- 15:00-15:20 休憩
- 15:20-16:20 東南アジア8カ国の留学生による発表・パフォーマンス (後半)
5. サントニーニョをめぐるフィリピンのフィエスタ(祭り)【PPTプレゼンテーション】  
フィリピンで数多く行われるフィエスタ(祭り)のうち、「サントニーニョ(聖なる幼きイエス)」の像を囲んで行われるシヌログ祭りについて、ビデオ映像を交えながら紹介した。
  6. 日・タイ相互理解【PPTプレゼンテーション】  
3人の留学生がロールプレイを通じて、王室及び仏教に焦点を当てながら、タイにおける文化を日本文化と比較しながら紹介した。
  7. ミャンマーを3つの時代から見るファッション・ショー【ファッション・ショー】  
イギリス植民地時代、日本占領下時代、現代と3つの時代の男女の民俗衣装を8名の学生が披露。ショーの後には、ビルマの竖琴の演奏を披露した。
  8. マレーシア・孔雀の舞【ダンス】  
マレーシアは、マレー系、華人系、インド系の3つの主要民族に加えて、地域のさまざまな民族から成るが、インド系の華やかなダンスを披露。学生が自ら振り付けを考えた。
- 16:20 フィナーレ  
(学生全員がスマップの「世界に一つだけの花」を歌って舞台上で登場、参加者に謝意を表した)
- 16:20-16:30 休憩
- 16:30-18:00 交流会(東南アジア8カ国のお菓子・飲み物を用意)

## 本番当日の風景(6月30日)



(上から)受付では民族衣装でお出迎え、MCはマレーシア女子学生とインドネシア男子学生、フィナーレの様子、交流会の様子

ASEANTロピカル祭りにより、東南アジア8ヶ国の留学生が一同にそろう、各国の発表、展示物やパネル、広報物、お菓子や飲み物などを通して、東南アジアの幅広い文化を紹介することができ、参加者の東南アジアの国々に対する一層の理解を深めることができました。また、当日は、134名もの参加者が現れ、会場は大いに賑わいました。外務省広報文化交流部人物交流室 川添忠吉課長補佐をはじめ、独立行政法人 日本学生支援機構 山田総一郎東京日本語教育センター長、国際機関 日本アセアンセンター 洲上奨慶観光交流部長代理、財団法人日本インドネシア協会 江見保則文化交流委員参与、ASEANの大使館の方々もいらして頂きました。また、参加者のうち、東南アジアに興味を持ち、国際交流を深めたいという日本人大学生や一般社会人が多く、さらにアメリカやスーダンからの参加者も応援に来て頂きました。

参加者からは、各国の発表内容がわかりやすく、特徴・良いところが伝わったとの評価を頂きました。そして、学生達の笑顔に元気をもらい、また、何度も練習をした様子を伺い知ることができたようで、彼らの一生懸命さに感銘を受けたようです。

このような国際色豊かな規模の大きいASEANTロピカル祭りを成功に結びつけたことに対して、学生達は、大変自信が付き、またアスジャ奨学生及びアスジャ国費留学生との交流を深めることができた有意義な事業でした。



ASEANTロピカル祭りの目的は、私たち東南アジア8ヶ国の留学生の母国を日本の皆様に紹介し、理解を深めていただくとともに、日本の皆様との交友を深めることでした。このイベントは、アスジャ・インターナショナルの2012年度の学生自主事業として、東南アジア8ヶ国からの留学生である私達が約5ヶ月かけて準備してきたものです。

私たち3人は、このイベントのリーダーを務めさせていただき、貴重な経験をする事ができました。お祭りのプログラム企画から準備、リハーサルの過程において、大変だったのはコミュニケーションです。自分の意見は自分がいくら良いと思っても、他人からの力やサポートがないと絶対にうまくいきません。自分だけではなく他人も優先に思うようになり、チームワークの力が大事だということを学びました。そして、東南アジアの他の国々の人々の考え方も以前より分かるようになりました。今後異文化間でのプログラムがあるときにも自信をもって臨めると思えるようになりました。

当日は、東南アジア8ヶ国が発表を行い、それぞれの国の異なる点や共通点を伝えることができました。また発表後に交流会も設け、来場者の方々とお話をすることができました。来場者の方々は東南アジアのお菓子を味わいながら、質問していらっしやいました。日本の方々の東南アジアに対する興味が想像以上に大きいことを知ることができ、大変嬉しく思いました。このような機会を頂きましたことに大変感謝しています。本当にありがとうございました。帰国後も日本と母国の架け橋となれるよう一生懸命頑張りたいと思います。

## 学生の感想文

### 【シンガポール男子学生】

私は今回のASEANTロピカル祭りのプロジェクトから、チームワークの重要性を学びました。私はデザインやフロア・プランの企画に積極的に関わっていました。たくさんプランニングや準備が必要なので、一人だけでは働けないと思います。皆が良いアイディアも出してくれて、できることを手伝ってくれて、今回のASEANTロピカル祭りを成功させることができました。チームワークの重要性を学んだだけでなく、皆とも仲良くなりました。

私はイベントのプランニングやデザインの経験があるので、メンバー達にイベントのプランニングやデザインのことを教えました。皆の考え方や経験は違うので、皆のコミュニケーションを図ることが大事です。このプロジェクトを通して、自分のコミュニケーションの能力に自信がつかしました。

### 【ミャンマー女子学生】

今回はどのような活動をやって、誰がリーダーをするかなどを皆一緒に相談して、ASEANTロピカル祭りと言う名前を皆で一つにつけた。その時から祭りが終わるまで皆が大変協力してくれた。協力が大事だと思った私たちは、文化や意見が違うという問題もあると知ることができた。私たちの小さな社会でも文化や意見の違いが大きな問題みたいに思えて涙が出るまで悲しかったり、怒ったりしたことなどいろいろあって、進んで行きたくないとまで考えたこともあった。しかし、大きな社会に入ったらこれより難しい問題が多くあることを考え、トロピカル祭りが成功するように、皆で協力して、忍耐を持って進んだからこのような成功を得ることができたと思う。だから、今回のASEANTロピカル祭りから、チームワーク、協力を学ぶことができ、また、人間としても異なる意見、力があること、忍耐もチームワークの中に必要だということを学ぶことができた。

### 【カンボジア女子学生】

I think everyone of us has done a very good job. We have shown our culture ranging from old time to what is interesting to our countries for now. Audience would have seen our uniqueness such as our tourist spots, food, dressing, people and everyday life. ASEAN Tropical Festival was a useful event for us to talk to audience to tell them about our countries.

As a member and observer, I was so happy hearing claps or seeing full attention from audience to the stage when performance or presentation was shown. In addition, after performance was finished, it was interesting that guests walked around taking pictures and trying to see exhibition of each ASEAN countries. Audiences made me feel they would like to find out more about what we just showed them by asking us related questions and giving compliments.



## 【カンボジア男子学生】

ASEANの8カ国のメンバーと一緒に働き、日本人と外国人が自分の国とASEANの文化を理解できるように、一生懸命特別な文化的アピールを探して、準備して、紹介することができた。もちろん、皆それぞれに高い能力を持っているが、違いや反対意見もある。違いや反対意見があっても、皆メンバーの意見を冷静によく聞いて、一番いい意見を選べた。それはとても大切だ。また、自分の国の準備がどんなに忙しくても他の国の準備を手伝った。それは大切なチームスピリットだ。

文化と魅力を伝えることができたと思っている。たとえば、お客様に伝統的な服を披露することができた。また、各国の挨拶の仕方も紹介できた。発表が終了した後、お客様が私たちに声をかけてくださって、私たちの国の言葉で挨拶してくださった。また、お客様が私たちに国々の伝統的な服を欲しいと仰った。お客様はたくさん写真を取っていた。

発表が終わった時に、多くの質問をいただいた。例えば、伝統的な服の形や挨拶の仕方や料理の作り方についての質問があった。また、あるお客様はカンボジア語の具体的な挨拶の言葉を知りたいと仰っていたので、私は教えて差し上げた。私の国のことにそんなに興味を持ってくださっていたのはとても嬉しかった。

# アスジャ事務局だより

## ◆◆ 4月 ◆◆

### ◆◆学生たちの動き◆◆

#### <日本文化体験>

伊勢ヶ濱相撲部屋での稽古見学と、江戸東京博物館見学をしました。日本の歴史と文化を肌で感じられた一日を学生達も楽しんだようです。大きなお相撲さんたちの厳しい練習の様子を見学し、そしてお相撲さんたちの日常も垣間見れた記憶は、日本らしい体験としていつまでも記憶に残ることでしょう。

## ◆◆ 5月 ◆◆

#### <国費留学生歓迎会>

アスジャの活動に加わる新しい仲間が増えました。新しい留学生たちはそれぞれ日本での勉強や生活について決意表明。アスジャ先輩の学生達もインドネシアのサブタジ・ハルゴのギターに合わせて、みんなで歓迎の歌を披露し、今回は「世界に一つだけの花」を初めて一緒に歌いました。この後すぐに、新しい学生も一緒にトロピカル祭りの準備に取り組むことに。学生達の交流も深まっています。

## ◆◆ 6月 ◆◆

#### <ASEANTロピカル祭り>

みな勉強や研究も忙しい中、なんとか時間を作り、スケジュールを合わせながら一緒に準備をしてきました。文化も違う国々の学生が集まって一つのものを作り上げるということの難しさ、そして喜びを感じました。また、日本という外国で日本語を使って、自分たちの国について伝える機会は、特別な思い出になりました。会場がいっぱいになるほどたくさんのお客さんに来場いただき、それを見て学生達も自信がついた様子。これからも積極的に自分の国をPRしていき、異文化と共楽していく力の元になったのではないのでしょうか。

### ◆◆今後のスケジュール◆◆

<8月> 夏季ホームステイ（於：静岡県福田、栃木県小山）

<9月> 那須甲子ボランティア

<10月> 日本生活体験研修（京都・奈良を予定）

### ◆◆編集後記◆◆

日本文化体験、ASEANTロピカル祭りと、盛りだくさんの年度スタートとなりました。日本語を一生懸命学びながら、自分の国のことを多様な豊かな方法で表現しようとする学生達の姿勢に胸を打たれました。さて、次はホームステイや那須甲子ボランティア、日本生活体験研修、アスジャスタッフも頑張っています。

次号(24号)は2012年12月に刊行予定です。ASJAニュースレターに関するご意見、ご要望、など皆様からのお声を、ASJAニュースレター編集担当村上までメール([info@asja.gr.jp](mailto:info@asja.gr.jp))にてお聞かせください。

### ◆◆退任のご挨拶◆◆

この度、2009年3月から務めてきたアスジャを退職することになりました古田です。アスジャは私に多くのことを学ぶ機会を与えてくれました。アスジャに入職するまでの私は、中南米の方々と仕事をしておりましたので、東南アジアからの奨学生や海外理事の皆様との出会いはとても新鮮で、東南アジアの文化や習慣を知ること、さらに視野が広まりました。

東南アジアの人々の前向きな生き方、陽気な性格、常に笑顔で絶えず、やさしさを振り撒く彼らに魅了されました。国や文化はそれぞれ違いますが、私たちは同じアジア人だなあと気づかせてくれることが多かったです。

アスジャでの私の仕事は、奨学生の日本での生活をサポートすることでした。しかし、日本語を全くできない状態から高い志を持って来日した彼ら、勉強に対する真剣で新しいことを吸収しようと何にも貪欲な奨学生たちと触れることで逆に私の方が支えられたことは言うまでもありません。残業で遅くなったときは、美味しい手作り料理を差し入れてくれたり、元気がないときは心配してくれたり、学生たちの気配りにはすぐ助けられました。日本で生活していく上で不安も多かったはずですが。そんな彼らには本当にありがたいという気持ちでいっぱいです。

アスジャは日本の文化を学生たちに体験させることで、帰国後、日本と母国の架け橋となるリーダーを育成することを目指しています。これまで歌舞伎、文楽、狂言を体験しました。昨年は東日本大震災の被災地に行きました。スタッフでありながら私も日本について多くのことを学ばせてもらいました。学生たちのレポートを通して、日本について多くの気づきもありました。アスジャのような、東南アジアだけではなく、日本についても深く学び、理解できて、双方の絆を築ける団体にはありません。アスジャで働けたことは私の誇りです。3年と短い期間でしたが、学生、理事の皆様、外務省の皆様、佐藤事務総長、スタッフの皆様と心と心の交流ができたと思います。私がどれだけ貢献できたか分かりませんが、これからもアスジャを応援しています。そして奨学生たちが日本で目標を達成し、夢を叶えられることを何よりも楽しみにしています。とても幸せな時間をありがとうございました。（古田加奈子）

### ◆◆新任のご挨拶◆◆

初めまして、こんにちは。6月からアスジャで働いている片山久美子と申します。私は今までASEANのいくつかの国で仕事をしてきました。それらの国々でとても温かく受け入れてもらえたので、これからはアスジャでASEANと日本の架け橋となる留学生を支えたいと思っています。私はASEANの国々の人々のお互いを尊重し合う姿勢が大好きです。私も日本人として様々な国の文化や背景の違う人々の考えを尊重しつつ、皆さんと一緒に仕事をすることを楽しみにしています。（片山久美子）